

ネットワーク分散型印刷に力を発揮する インテリジェントRIP「Trueflow」を開発

大日本スクリーン製造株式会社(本社:京都市上京区/社長:石田 明)は、印刷のネットワーク分散環境に対応したインテリジェントRIP「Trueflow(トゥールフロー)」を開発し、1999年12月に発売します。

「Trueflow」は、米国アドビシステムズ社(=Adobe Systems Incorporated)の最新インタープリターを採用したRIP(Raster Image Processor)システム。RIPシステムとは、一般的にDTP(デスクトップ・パブリッシング)からページデータを受け取り、フィルムレコーダーやプレートレコーダーなどの出力機に露光できるデータ形式に変換し出力するシステムのこと。

このたび販売する「Trueflow」は、上述のような従来のRIPと出力機能に加え、各種処理の指示を記載した「ジョブ・チケット」に従って自動処理を実行する機能、印刷部門などに配信するデータファイルに変換する機能、WWWブラウザを利用したオペレーション機能を搭載しました。

配信データファイルとして、PostScript(R)ファイル(RIP'ed PS)、PDFファイル(RIP'ed PDF)、TIFF/IT-P1ファイルの3種をサポート。これらのファイルはRIP後のラスターデータをそれぞれのフォーマットにしたもの。特に「RIP'ed PDF」は、電子化された文書閲覧ソフトで業界標準となりつつあるAdobe(R)Acrobat(R)Reader(=アドビ アクロバットリーダー)で閲覧できるため、デザイン・制作企画・製版・印刷などの部門が印刷前のラスターデータをパソコンのカラーモニター上で確認でき、見たままのデータを印刷できるという安心感が得られます。

これまでは、例えば遠隔地にある印刷部門に送られる印刷用データとしてはDTPのページデータがほとんどで、同データからラスターデータを生成するのにフォントを搭載したプリプレスシステムやRIP装置が印刷部門に必要。さらに、文字化けや絵柄の抜けなどの予期せぬトラブルがデータ処理中に発生する場合もあり、遠隔地でのページデータの処理には少なからず不安がつきまとっていました。

しかし、今回のシステムを用いることによって、遠隔地の印刷部門でも配信されたラスターデータ(RIP'ed PS、RIP'ed PDF)を単に出力するだけで同じ出力結果が得られ、より確実に効率的な印刷の生産システムが構築できます。

また、今年8月31日に大日本スクリーン・富士写真フイルム・NTTコミュニケーションズの3社が共同発表した通信アプリケーション「GTRAX(ジートラックス)」などの高速通信ネットワークを利用した大容量データの配信と汎用WWWブラウザを用いたオペレーションによって、ネットワーク分散型印刷の生産形態が可能になります。

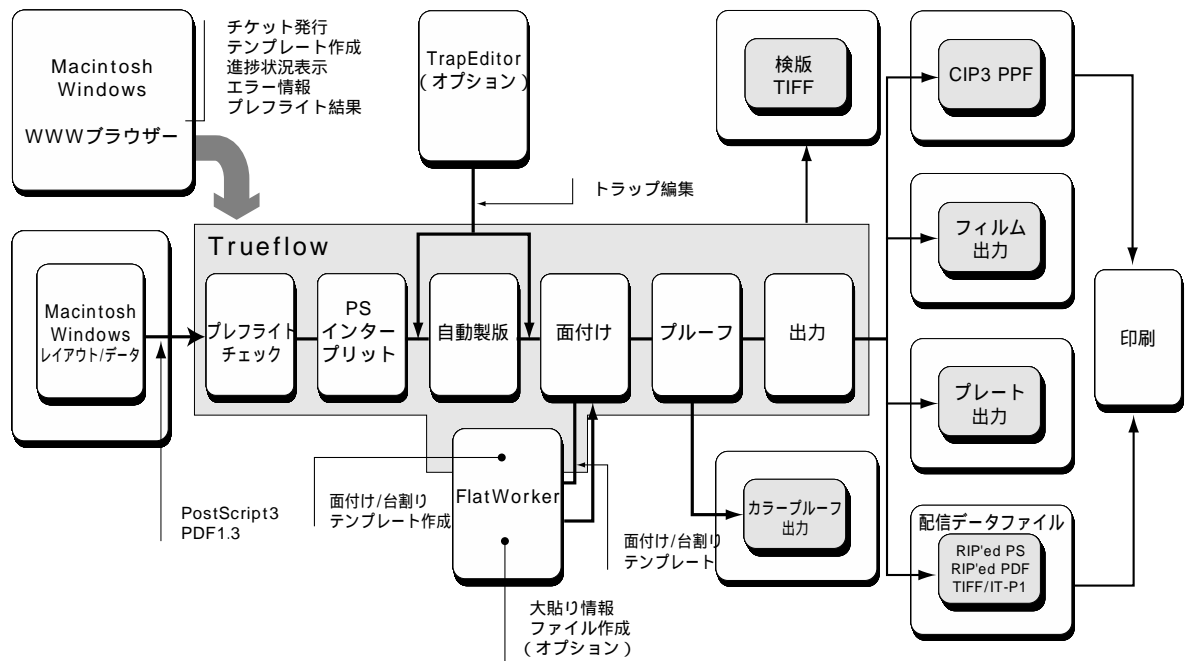
消費者ニーズの多様化で商品のライフサイクルが短くなるに従い、印刷市場では必要な部数だけ印刷する小ロット印刷が増加しています。「Trueflow」はそんな市場の動きを先取りし、印刷機の稼働率を維持させながら、短納期に対応していく印刷物生産システムの柔軟性と瞬発性を強化します。

販売予定時期 : 1999年12月

参考価格 : 950万円~1,600万円(システム構成により異なる)

年間販売予定数 : 450台

< 概念図 >



< 特長のサマリー >

- ・ Adobe Systems 社最新コアテクノロジー搭載
「Trueflow」は、Adobe Systems社の最新技術のインタープリターを採用したRIPシステム。Adobe PDF1.3、Adobe PostScript 3™のファイルを受け取りRIP処理。RIP後のラスターデータをRIP'ed PDFフォーマットで出力できる。これにより、PDF入力からPDF出力までの一貫したPDFのワークフローを実現。
- ・ マルチ CPU 対応の高速 RIP
プラットフォームには、最新のWindowsNTマシンを使用し、マルチCPU処理(最大4CPU)にも対応。イメージセッター出力用モデルから、ジョブの運用を最適化するCTPワークフロー用モデルまでアップグレード対応。最先端技術の採用と幅広い拡張性を両立させたシステム構成を提供。
- ・ WWW ブラウザー対応でイージーオペレーション
汎用WWWブラウザでオペレーションするため、ネットワーク上の端末ならすべての「Trueflow」のオペレーションが可能。
- ・ 各種業界標準入出力データのサポート
Adobe PostScript 3やAdobe PDF1.3をはじめ、EPSやCopydot、RIP済み配信データ(RIP'ed PS、RIP'ed PDF)など各種業界標準デジタルフォーマットの入力をサポート。また、出力もTIFF、RIP'ed PS、RIP'ed PDF、TIFF/IT-P1、Copydot、CIP3のPPFおよびWindowsプリンター用のGDIをサポート。
- ・ ジョブチケットとドラッグ&ドロップで自動処理
プレフライトチェック、Adobe PostScript 3 / Adobe PDF1.3インタープリット、自動製版、面付け・台割り、ブルーフ出力、および出力演算などの処理条件をいろいろ変えたジョブチケットをホットフォルダーにアサイン。出力したいデータを、ホットフォルダーにドラッグ&ドロップするだけで出力ができる簡単オペレーションを実現。処理のし忘れや間違いを未然に防止して、複雑な製版処理を自動で実行。
- ・ CTP に必要な台割り機能の充実
豊富な台割り機能の充実により、ジョブの折りごとに異なる面付けパターンを指定したり各種面付けに使用する折りパターンを登録可能。ホットフォルダーの作成時に使用する台割りテンプレートを指定するだけで、自動的に面付け処理を実行して出力できる。また、オプションの「FlatWorker」を使用すると、複数ジョブを使ったプレート上での大貼りデータを「Trueflow」から出力が可能。

- ・各ブルーファーストに最適なカラーマネジメント処理

ネットワークのオープン環境に適した業界標準のICCプロファイルに対応した当社独自のカラーマネジメントモジュールで、各ブルーファーストに最適なカラーマネジメントが可能。この機能により出力時の色調整に時間をかけることなく、安定した高品質な出力を実現。

- ・広域での分業や遠隔地印刷がネットワークで実現

「Trueflow」は、大容量の高速通信ネットワーク「GTRAX」を介して、RIP'ed PSやRIP'ed PDFを受け渡し可能。製版サイトから配信したデータを遠隔地の印刷工場ですべてRIP処理することなく出力可能。

- ・オンラインサポートサービス

リモートメンテナンスによるオンラインサポートサービスに対応。ネットワークを介してサービス拠点からユーザーのシステムに直接アクセスして、状況をモニターできるため、より正確でスピーディな診断が可能。

注：PDF(Portable Document Format)は、米国アドビシステムズ社(= Adobe Systems Incorporated)が開発し仕様を一般に公開しているファイル形式。さまざまなファイル形式のドキュメントから作成されたPDFファイルは、OSに関係なく無償の閲覧ソフト「Adobe Acrobat Reader」で元の体裁のまま閲覧・出力できると同時にファイル容量も比較的小さく、インターネット/イントラネットを通じた配信やアーカイブ保存にも利用できる業界標準ファイル形式として日本国内でも注目を集めている。

* Adobe、Adobeロゴ、Adobe Acrobatは、PostScript 3は、Adobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社)の商標です。Apple、Macintosh、PowerMacintoshおよび漢字Talkは米国およびその他の国で登録されているApple Computer, Inc.の商標です。Microsoft Windowsは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標であり、WindowsNTは同社の商標です。文中のその他の商品名は各社の商標・登録商標です。